

## サセックス・ダウNZメン協会 (The Society of Sussex Downsmen) の活動:1947-1948

坂梨健史郎

### はじめに

イングランド南部に位置するサウス・ダウNZ (the South Downs) は、東はイースト・サセックス州から西はハンプシャー州にまで続く長大な丘陵地帯であり、それはロンドンを含むイングランド南部の多くの人々に今日まで愛されてきた。それは牧草地として機能しただけでなく、人々に散策と眺望の場を与え、その景観はイングランド南部の、時にはイングランド全体の自然のシンボリック的存在となってきた<sup>1</sup>。

そのサウス・ダウNZのサセックス州内での景観保全やそのほか通行権等の保護を主な活動目的とする団体がサセックス・ダウNZメン協会 (The Society of Sussex Downsmen, 以下「SSD」とする) である。この非営利組織は1924年、サセックス在住の文人アーサー・ベケット Arthur Beckett を会長として、サセックス州およびロンドン在住の名士によって結成された。SSDは今日でも活発な活動をしているが、本稿は前稿および前々稿に引き続き、事務局長リリアン・ベイトリーの報告書および理事会議事録を基に1947年後半から1948年初頭にかけての活動状況について記述するものである<sup>2</sup>。

戦時中に使用を停止したデュー・ポンド (dew pond 人工の貯め池) の一部が決壊した件で、事務局長は書簡を受け取った。残りのデュー・ポンドが完全に消失することを防ぐべく、SSDが役に立てないかという会員からの照会であった。理事会ではジャーナリストによる詳細な記事が功を奏するかもしれないとの提案がなされた。

また同理事会では、一般口座にある25ポンドの遺贈分を寄附口座に振り替え、かつ生涯会員口座から55ポンドを引き出して戦時公債 (War Stock) の購入に充て、現有持ち株を増やすことが提案され、承認されている。戦時公債が戦後いつ頃まで購入可能であったかは今後の調査が必要

である。

次に事務局長による報告があり、ダウنز上に存在する複数の危険箇所についていまなお多くの苦情が寄せられているとのことであった。鉄条網の残片や放置された各個掩体（slit trench少人数用の塹壕）によるこれらの危険箇所について、事務局長はブライトン市当局およびイースト・サセックス州戦時農業実行委員会に対し、スタンマーとディッチリング間で既に行われた除去作業の方法について情報提供を求めた。しかしながら両者ともに上記地域の管轄ではないとのことで、後者からは機械設備がほぼ撤去された後に農家が同作業を行った可能性があるとの回答があった。

この報告を受けて複数の理事から、陸軍省が移動手段を提供するならばボランティアを組織できるとの意見が出された。事務局長が再度陸軍省に対して、上記区域は接收解除済みであるので、ボランティアの支援を組織することが可能となった場合には移動手段が提供されるか否かを照会することとなった。

この照会については数ヵ月後に陸軍省から回答があり、1947年10月25日の理事会において報告されている。かかる目的には資金も移動手段も提供できないとの回答であった。この件は再度審議され、[ボーイ]スカウト団体を通じて及び一般に広くボランティア募集を試みることに決定された。但し軍により接收解除された区域限定の活動となる。手始めにスカウト団体関係者に連絡を取ることが広報委員会に付託されている。

1947年10月25日の理事会の冒頭、議長であるアーヴァイン・ベイトリー大尉が開会を宣言し、SSDの会長として新たに選出されたH・W・スタイルズ中佐が会長として初めて出席するにあたり、歓迎の辞を述べている。

同理事会ではスタンマー・パークのブライトン市への譲渡問題がまず議題となった。この件に関しては手は尽くされ、SSDとしてこれ以上の行動は取れないとの感があった。但し同地所のダウンランドにあたる部分を注視しつつ、そのいかなる部分についても都市区域への編入に反対することとなった。この件は広報委員会に回付された。

次に、SSD会員からの寄付金により羊の群れを所有してはどうかという提案が審議された。スタイルズ会長が牧羊は金銭的に極めて不安定な事業であるとしてこれに反対する助言を申し立てた。他の複数の理事は、これ以上の数の羊によるダウنزの再生の問題に関しては戦時農業実行委員会との調整が必要であろうとの意見を述べた。

続いて広報委員会からの報告があり、サウスダウン・バスへの広告出稿が検討されていたが、費用の観点から（バス一台あたり年間3ポンド）見送ることとなった。

また若年層の取り込みを図るため、ユースホステル協会に働き掛けて南東地域のホステルにSSDの額入りポスターを掲出し、会員証、会の目的や会費の詳細等を掲示する許可を求めることが決定されている。

続いて議事録では1948年1月17日の理事会に向けたアジェンダが記載されているが、そこでは二つの案件が注目を引く。

一つ目はスタンマー・パークに関してであり、1947年11月7日付けで事務局長よりイースト・サセックス州議評議会事務官宛てに送付された書簡の写しが回覧された。「10月25日の理事会にて、同地所が保健省の認可によりブライトン市に譲渡されたことに遺憾の意が表明された。当理事会としては、同地所は都市区域内に編入されるべきではないという意見であり、当職はこの点に関して貴職の見解を賜りたい」

二つ目の案件は1948年1月7日付けでパッチング教区評議会事務官から届いた書簡についての報告である。「パッチング教区評議会からの要請で貴殿に照会いたします。パッチング・ヒルに自生するイングランドの代表的な樹木を森林委員会がこれ以上伐採しないようにSSDにして頂ける事はないでしょうか。大きな商業規模での丸太の売却目的で無差別に切り倒されており、しかも地元の材木商人だけではなく。田園の景観を台無しにしており、鳥の生態を妨げており、ついには土地に大きな被害をもたらすことでしょう。しかもオークや榆などが生えていたところに針葉樹を植える習慣はほぼ何の役にも立ちません。手遅れになる前に出来るだけ早く貴殿からの助言と助力があれば、当評議会は大いに謝することでしょう。」

これを受け、事務局長が上記書簡の写しを翌1月8日付けで当の森林委員会保護官に送ったことが報告されている。上記書簡の結語はほぼそのままに「貴殿から助言を頂ければ、当職は大いに謝することでしょう」との文言を添えている。

1948年1月17日の理事会ではフットパス調査について事務局長から報告があった。都市計画省のフットパス報告書の一部となっているこのフットパス調査はランプリング・クラブ南部連盟が引き受け、実施には四年かかると見込まれている。事務局長は同連盟と連絡を取り合っており、ダウン

ランド地域においてはSSDが協力を申し出ることを事務局長が提案し、理事会で了承された。上記報告書を各地区担当者に一部ずつ送付することとなった。

次にフリストン・ヒルが議題となった。ダウンズを横切ってジェヴィントンに至る眺望を開く目的でSSDが森林委員会と折衝が続けていたが、このほど合意に達したとクルック（Dr Crook）から報告があった。しかるべき時期にフリストン・ヒルの林間に数本の乗馬道を切り開き、よって上記目的を達するというものである。

ユースホステルでSSDの活動を広報し、若年層の加入を促す件に関しては、ユースホステル協会より好意的な返答が寄せられたとし、活動内容を紹介するポスターがパッチャム及びアランデルのホステルに送られることとなった。

この理事会ではまた、サウス・ダウンズの国立公園化を巡る動きについても討議された。議長のL・リッチモンド・ウィーラー博士より、SSDの小委員会であるところの戦後ダウンランド委員会の報告があった。1948年1月10日にポートスレイドにて開かれた同委員会にて、政府委員会である「国立公園委員会」の「報告書」が仔細に検討され、多数の論点にわたり議論した結果、以下の決議が承認された。「当小委員会は理事会に助言する、都市計画大臣宛に書簡を送り、国立公園委員会がサウス・ダウンズに関して指名する予定の公園委員会の委員にSSDの一人または複数の会員を含めるように強く要請すべきである。」

## まとめ

デュー・ポンドの一部が決壊した件で、残りのデュー・ポンドが完全に消失することを防ぐべく、SSDは対応を迫られた。また資産運用も課題であった。ダウンズ上に存在する鉄条網の残片や放置された各個掩体などの危険箇所について、SSDは除去作業の方法について模索していた。作業をボランティアで進めるとし、陸軍省に移動手段の提供を要請したが拒否された。H・W・スタイルズ中佐が新会長に選出された。スタンマー・パークのブライトン市への譲渡については同地所のダウンランドにあたる部分を注視しつつ、そのいかなる部分についても都市区域への編入に反対することとなった。SSD会員からの寄付金による牧羊については会長が金銭的に極めて不安定な事業であるとして難色を示した。サウスダウン・バスへ

の広告出稿は費用の観点から見送られた。若年層の取り込みを図るため、ユースホステルにSSDの宣伝ポスターを掲出することとなった。パッチング・ヒルにおける森林委員会による樹木の伐採・売却についてSSDとしてはまず同委員会の見解を質した。都市計画省によるフットパス調査については、ダウンランド地域においてはSSDが協力を申し出ることとなった。ダウンズを横切ってジェヴィントンに至る眺望を開く目的でフリストン・ヒルの林間に乗馬道を切り開くこととなった。サウス・ダウンズの国立公園化については、国立公園委員会がこの件に関して指名する公園委員にSSDの会員を含めるように都市計画大臣に強く要請すべきだと戦後ダウンランド委員会が決議した。

---

1 Peter Brandon, *The South Downs* (Chichester, 1998), xv.

2 本稿の史料は英国イースト・サセックス州文書館 (East Sussex Record Office) 所蔵の「サセックス・ダウンズメン協会運営委員会議事録 (The Minutes of the Executive Committee of the Society of Sussex Downsmen)」およびそれに添付された書簡や文書である (整理番号 ACC6849)。なお、SSDは現在では「サウス・ダウンズ協会 (South Downs Society)」という名称になっている。